

協会レビュー 2016年第1号

協会での取り組み

都市懇サロン200回記念座談会「都市懇サロンのこれまでとこれから」

平成7年から続いている都市懇サロンが、今年の4月で節目の200回を迎えました。

協会レビューではこれを記念して、都市懇サロンの運営に携われた歴代の部会長にお集まりいただき、都市懇サロンにまつわる座談会を行いました。

お集まりいただいた方は、協会技術委員会都市懇サロン運営部会 現部会長の木村淳様（国際開発コンサルタンツ）、前部会長の大村敏様（元オオバ）、元部会長の廣川繁様（千代田コンサルタント）です。座談会では、これまでの経緯、運営面、ご苦労されたこと、これからの展望などについて貴重なお話をお聞かせいただきました。時代とともに目的やテーマを変えつつ、「懇」、「サロン」という言葉に現れている気楽な意見交換の場という発想を大切にしてきたことが、200回続いてきた秘訣のようです。

■都市懇サロン立ち上げからこれまでの経緯

——最初に、もう20年以上前のことになりますが、都市懇サロンを開催することになった経緯をお聞かせください。

廣川 当協会が主催する講習会やセミナーなどの取組みとしては、技術士セミナーが最も歴史があり、協会が設立された当初から開催されていました。都市懇サロンは平成7年から始まりましたが、当初は会員企業の創業者や経営者の交



流会のようなものでした。都市計画の重鎮たちが集まってお茶を飲みながら話し合う形式がずっと続いていて、若い世代の人たちが参加しやすいような雰囲気は薄かった印象があります。

そこで、都市懇サロンをもっと開かれたものにしようと、当時の運営メンバーで相談しました。現在のスタイルに近い形式での開催を協会側に提案したのです。半分はこれまで通りの形式でも良いが、もう半分は、若い世代が技術的なアドバイスをもらえるような機会があっても良いのではないかと。



木村 都市懇サロンの開催当初は会員企業のトップが集まり、いま考えていることやその時代の先を行くようなテーマを設定しながら回数を重ねていきました（巻末の開催記録参照）。話題もレベルが高かったですね。この形式がしばらく続きました。

それが平成17～18年頃に、もっと若い人が実務的な観点から話を聞ける場があると良い、という声があがりました。同業のコンサルタントがどのような仕事をしているのか、どのような苦労をしているのか知りたい、と。そこで、従来型の回と、新たな実務型の回を交互に開催する形に移行していきました。

今は、年10回のうち5月頃に国交省の予算関係の話題があるのを除けば、実務型の話題が中心になっています。そういう意味では、当初の方がバラエティに富んでいたかもしれませぬ。

——平成7年前後ですと、様々な学会や協会などで公開型の勉強会的な活動が盛んに行われていた記憶があります。そのような流れも意識されて、都市懇サロンが始まったのでしょうか。

廣川 都市計画学会でも勉強会が行われていましたが、都市懇サロンの方が先でしたね。当初の都市懇サロンは、先にもあったように会員企業のトップや重鎮が会議室に集まってよもやま話をして、次の幹事を決めるような形で行っていたようです。その後、今のような実務型のサロンが行われるようになったのは、確か大村さんの発案でした。

大村 私たち（廣川、大村など）が最初に集まったのは、平成4年頃、都市計画法改正に伴う都市マスの歩掛に関する手引きを作成したときです。当初は、関さん（関研二氏：都市環境計画研究所）が委員長でした。その後、平成12年に手引きを改訂した際に東京と大阪で説明会を開催したのですが、その説明会に100名以上の参加がありました。それで気を良くした三田村さん、木村さん、（遠矢さん）を含めた私たち4人組が、当時の技術委員として協会活動に関わるようになったと記憶しています（三田村喜己男氏：URリンケージ 遠矢隆雄氏：当時、東武計画）。

今のような実務型のサロンを始めたきっかけは、参加人数の減少です。都市懇サロンの立ち上げから10年ほどは参加者も集まっていたのですが、記念すべき第100回の頃（平成17～18年）、当時注目されていたソウルの清溪川（高速道路を撤去して親水空間を復元したプロジェクト）の話題などでしたが、特に若い人の参加者が少なかった。当時、都市懇サロンの収支も厳しくなってきた、何か新しいアイデアを出す必要がありました。そこで、若い人向けの実務型のサロンを提案したのです。さまざまな議論はありましたが、最終的には、従来型の回と、新たな実務型の回を交互に開催する形をとることにしました。それが平成18年頃のことです。

■都市懇サロンの運営について

——各回のテーマの設定や講師の人選は、どのように準備されていますか。

大村 平成14年頃から協会内の技術委員会内に都市懇サロン部会が設置され、年3～4回集まるようになりました。その技術委員会においても都市懇サロンについて相談しましたし、何か課題があれば中心メンバーで集まることもありました。

廣川 都市懇サロンの運営は技術委員会の方で検討することが多かったですね。当初は2ヶ月に1回程度、かなり密に開催していました。

——年間10本の企画を決めるのは大変だと思うのですが。

木村 本当は、従来型と実務型を交互に開催したいのですが、実務型の講師をお願いするには苦労しています。会員企業の方にアンケートで募集をかけても、応募がありませんでした。また従来型についても、本来は部会のメンバーが6人いるので持ち回りでも良いのですが、メンバーは記録係も担っているので少し荷が重い。今はもう少し簡潔になっていますが、以前の都市懇サロンの記録は何ページにもわたってかなり詳細なもので、記録をとるのがかなり負担でした。以前は記録係のほかに講師人選を検討するスタッフがいて、半年分くらいはテーマが決まっていたので苦労は少なかったです。

——参加者が多かった頃は、しばしば麹町会館の会議室を借りて開催することもあったと記憶しています。

大村 平成23年度の国交省の復興事業の回は、参加者が多く麹町会館で開催しました。その頃までの、国交省の方の回はほとんど麹町会館で開催しましたね。

——数年前まではお茶にサンドイッチも出ていて、ちょっぴり豪勢でした（笑）。こうしたスタイルを採用した背景はご存知ですか。

廣川 当初は、お茶とサンドイッチでも食べながらフランクにやろう、ということで始まったようです。

木村 ホテルオークラから取り寄せたおいしいサンドイッチでしたよね。当時は会員数も多くて経済的にも豊かだったのですが、何年前に経費節約のため、廃止してしまいました。



現部会長 木村淳様



■講師の人選うら話

———運営の面でご苦労されたことはありますか。

廣川 やはり、講師の人選ですね。時代に応じた、話題の方をお呼びしたいと思うと。全ての方ではないですが、守秘義務に反するとか、ノウハウの流出につながるとかの理由で引き受けていただけない方の説得も大変でした。

木村 平成 26 年度からは都市計画実務発表会も開催しており、実務の成果がオープンにしやすい環境になってきたのかもしれないですね。

廣川 インターネット社会になってきたことも、大きいと思います。

また、最近では東日本大震災の復興業務などで都市計画コンサルタントの実績を紹介することもPRになっています。発注者の理解を得た上で発表する機会も増えている。発注者の理解も変わってきたのかもしれないですね。

都市計画以外の分野の方々に講師をお願いするという点で、大村さんは苦労されたのではないですか。

大村 別に苦労とは思っていませんでした。本を読んで、話を聞いてみたいと思った著者に、直接電話をしたりしました。当時はまだインターネットが発達していなかったので。皆さん意外と快諾してくれました。

はじめにお願いしたのは、平成 14 年のエコプラン(当時)の三船さんです。その次に、ファイナンスの野口さんです。これがとても評判が良くて人が多く集まったので、年に 3 回開催して、次の年から何年間かファイナンスの講座を開設しました。都市計画とは直接関係ないですが、持続可能という意味でスローフードのテーマで早稲田大学の工藤さんにお話いただいたこともありました。

色々な本の中からおもしろそうな話題を見つけて、直接著者に電話するのを続けたわけですが、都市計画やまちづくりを別の専門の方の目から見てもらう、というおもしろさもあったと思います。

木村 自分が部会長になって、本を読んで直接交渉すると意外と快諾していただけるものなのだなと実感しました。逆にこういう場を設けてもらってありがたいと、お礼の言葉をいただくこともあります。

それから今はインターネットの発達によって、参加者も変化してきています。当初はコンサルタントと自治体の方が少し来られるのが基本だったように思いますが、今は当協会からの発信や都市計画学会のメーリングリストなどで周知を図っているため、学生さんも含めて参加者にもバラエティが出てきましたね。



——インターネットが発達する前の周知の仕方はどうされていたのですか。

木村 郵送かFAXでした。

大村 大変でしたね。

廣川 わが社では都市懇サロンのお知らせが掲示板に貼ってあって、毎月楽しみにしている人は何人かいましたね。当時は時間に余裕があったからか、上司から参加して来いという指令がかかることもありました。

そのような周知の方法だったので当時は会員企業が主体でしたが、一度参加した人には郵送でお知らせしていたようで、行政の方やゼネコンの方など、会員企業以外の固定客もいらっしゃいました。



前部会長 大村敏様

■都市懇サロンが続いてきた意義

——都市懇サロンは一貫して、比較的少人数

数による懇談のスタイルが定着しています。やはり、少人数によるねらいや効果は意図していますか。

木村 当初は会員企業同士の情報交換や交流が目的でしたが、先ほど話したように今は変わってきていますよね。

大村 都市懇サロンという名前そのものが、「懇」と「サロン」と、日本語と英語で同じような意味を重ねている。そういうところに、当初の目的が見えると思います。当初中心となっていた佐藤さん、富安さん、矢嶋さん、楠本さんなどは、そういう風に考えられていたと思います（佐藤健正氏：当時、市浦都市開発建築コンサルタンツ 富安秀雄氏：当時、市浦都市開発建築コンサルタンツ 矢嶋啓自氏：都市環境研究所 楠本洋二氏：エックス都市研究所）。

——都市懇サロンが20年間続いてきた秘訣は、まさにそのあたりなのですね。目的やテーマを変えつつ、ざくばらんな意見交換という発想はずっと受け継がれてきていて、それがこれまで続いてきた秘訣の一つだと感じました。

大村 前半の1時間は講師に話してもらって、後半の1時間で自由に議論するという形式は当初から変わっていません。後半の自由な意見交換というところに意味があると思います。

木村 人数的にも気楽さというか、発言しやすい雰囲気がありますよね。

大村 狭い業界なので、サロンによって人間関係ができたり、仕事に結びついたりという面もあるでしょうね。



廣川 都市計画だけでなく、まちづくりを考えると色々な分野と交流・コラボレーションする必要があります。個人ではなかなか難しいですが、そういう色々な分野に接することができるというのがサロンの大きな意味だと思いますね。

今のまちづくりの課題でもあると思いますが、例えば福祉分野とまちづくりは密接に関係しているにもかかわらず、私たちは門外漢。都市計画コンサルタントだけではまちづくりは出来ないぞ、色々な分野と連携していかないと置いて行かれるぞ、と言われていきます。そういう意味では、都市懇サロンはまさに他分野との交流の先駆けであり、非常に大きな意義を持っていると思います。

■今後の都市懇サロンに期待すること

——最後に、今後の都市懇サロンにさらに期待したいことがありましたら、お聞かせください。

廣川 よく200回も続けてこられたな、という感慨深いものがあります。その中には色々な苦勞があったと思いますが、引き続き皆さまのご尽力で未来につなげて行ってほしいと思います。

もっと若い人に参加してもらいたいですね。わが社の社員にも、もっと促したいと思います。若い人が参加して目からうろこが落ちるような、そういう場にしてほしいと思います。

大村 これからのまちづくりは、都市計画だけではなくて、防災、環境、景観、福祉など様々な分野の力を得ないと解決できません。そういう意味で、都市懇サロンなどを通して他分野のことをきちんと知ることが大切だと思います。

わが社では、「T型の技術者」を目指せと言っていました。「T」の縦棒のようにある分野について深く知るとともに、横棒のように広く浅く様々な分野のことを知っているということがまちづくりの面では求められます。都市懇サロンは、その横棒の部分を作るうえで大きな意味を持つと思いますので、これからもますます発展させていければと思います。

廣川 わが社では「画鋲型」と言います。目指す方向性は同じですね。

木村 今後も、いわゆる都市計画やまちづくりに限らず、なるべく幅広いテーマを取り上げてほしいです。また大きな会場だと意見交換というより質疑応答的になるのですが、都市懇サロンの規模だと本音のところが聞ける。そういうところが貴重だと思っているので、この雰囲気大切にしてほしいです。若い人も含めて実務的な話が聞ける場、交流の場であり続けてほしいですね。

そのような要素をうまくアレンジしながら、今後も続けていきたいと思っています。

廣川 講師と聴講生という関係ではなく、相談でも良いと思うのです。生煮えでも良いから、こんなことに悩んでいる、良い知恵はありませんか、という交流でも良いのかな、と。同じ目線でアイディアを出し合うというのも、技術者交流としては重要だと思います。

——悩み相談会、すごく良いと思います。ベースをしっかりと共有した方が、業界がどんどん上に伸びていく。ディスカッションしながらベースを作っていくような場が作れるとおもしろいなと思います。

木村 私たちがやってきたことも、そういうところだと思います。そのように交流の場になるというのが、都市懇サロンの意義だと思います。一つの方向としておもしろいですね。

廣川 東日本大震災のとき各地で高台移転が検討されましたが、宅地造成ができる都市計画コンサルタントがなかなかおらず、とんでもない絵があちこちで出ました。その時、結果的には見送ったのですが、宅地造成の講習会をやろうかという話が出ました。協会としては、そういう技術伝達の機会があっても良いと思います。

木村 もう一度手を動かすところから勉強する機会があってもいいですね。

廣川 都市計画といっても、法定計画の仕事は最近ほとんどないですよ。まちづくりというのは、色々な人が集まってまちをつくり、そこに色々な人が住みます。都市計画というと何だか堅い、古いイメージになりますよね。「ソーシャルデザイン」という形で言い表した方がよいと思います。

木村 狭い意味での都市計画ではなく、ソーシャルデザインのできるT型・画鋲型のコンサルタントとなっていくためにも、都市懇サロンを今後も続けていきたいと思っています。——本日は貴重なお話を有難うございました。



元部会長 廣川繁様

インタビュー日時 平成28年5月20日(金)

聞き手 協会レビュー編集部 津端、楠亀、印部



<編集部補足①>

都市懇サロン開催経過

(注) 一部、情報把握ができなかった回もあります。

年度	回数	テーマ	講師
H7	1	阪神大震災と再開発プランナー	都市問題経営研究所 藤田邦昭氏
	2	プラハ・パリのニュータウン・ドッグランド開発	市浦都市開発 富安秀雄氏
	3	賃貸都市	都市環境研究所 泉耿介氏
	4	これからのリゾート開発	ラック計画研究所 菊池武則氏
	5	地下都市について	パシフィックコンサルタンツ 西淳二氏
H8	6	水辺景観形成の話	三井共同建設コンサルタンツ 三品武司氏
	7	最近の海外コンサル事情	地域計画連合 西多英治氏
	8	情報化と都市づくり	エックス都市研究所 楠本洋二氏
	9	最近の都市再開発	R I A 近藤正一氏
	10	筑波研究学園都市の30年と首都機能移転	都市環境研究所 矢嶋啓自氏
	11	環境共生型都市づくりの最新事例	ラック計画研究所 菊池武則氏
	12	世界遺産：イエメンの都市をみる	アルメック 今井晴彦氏
	13	※資料なし	
	14	モノレールの現状と課題	日本モノレール協会 山下泰輔氏
	15	幕張新都心住宅地計画の当初から現在まで	市浦都市開発 富安秀雄氏
H9	16	造園の理解	東京ランドスケープ研究所 小林立人氏
	17	SC開発の今後の方向性	都市問題経営研究所 矢野治氏
	18	女性のための都市計画	アルメック 坂井雅子氏
	19	都市国家シンガポールあれこれ	トデック 林茂樹氏
	20	21世紀に向けて都市計画コンサルタントは何をなすべきか	UG都市設計 鈴木崇英氏
	21	街づくりの最近の国内外の傾向	都市問題経営研究所 藤田邦昭氏
	22	新しい金融技術と不動産事業	長銀総研コンサルティング 鈴木洋壹氏
	23	国際女性建築家会議第12回日本大会	生活構造研究所 松川淳子氏
	24	都心部を活性化するつくばセンターの駐車場	都市開発技術サービス 浅谷陽治氏
H10	25	都市計画コンサルタントから見た沖縄の基地	末吉栄三計画研究所 末吉栄三氏
	26	※資料なし	
	27	ゼロエミッション社会への道～屋久島から東京へ～	環境事業計画研究所 吉村元男氏
	28	ベトナムとハノイの都市開発	市浦都市開発 富安秀雄氏
	29	北欧都市計画事情視察団に参加して	地域計画連合 西多英治氏
	30	牧園町・丸尾地区のまちづくり(地方都市の市街地活性化事例)	市浦都市開発 内田勝巳氏
	31	江戸の城下町建設に学ぶ	法政大学 高橋賢一氏
	32	奥州都市計画視察団報告	オオバ 矢野徹郎氏
	33	遊歩都市とコンサルタント	都市総合計画 司波寛氏
	34	地方都市における中心市街地活性化問題	マーケティングコンサルタント 伊藤玲子氏

年度	回数	テーマ	講師
H11	35	時空生一「循環の時間とニュータウン」	多摩都市交通施設公社 御船哲氏
	36	阪神・淡路大震災が残したものの	都市防災研究所 重川希志依氏
	37	ガーデニングから見た都市のあり方	ブレック研究所 杉尾伸太郎氏
	38	スーダンの紹介	市浦都市開発 富安秀雄氏
	39	既成市街地の更新に向けて～容積移転～	建設省住宅局 伊藤明子氏
	40	中国都市整備事例調査報告	都市環境研究所 矢嶋啓自氏
	41	街づくりリソフト～人と生活～	埼玉短期大学教授 深尾凱子氏
	42	都市計画法の動向(仮題)	建設省都市局都市計画課 倉野泰行氏
	43	市民に語る都市計画「街づくりがわかる本」	聖徳短期大学助教授 梶島邦江氏
	44	21世紀に架けたゆめ～荒川水上バス～	海洋商船 吉本玉子氏
H12	45	再開発事業の現状～再開発はどこに向かうのか～	R I A 宮原義昭氏
	46	外国人居住者と住まい・まち～新宿区大久保発～	ジオプランニング 塩路安紀子氏
	47	イベントと都市計画～都市のソフトの姿とイベント	都市設計研究所 南條道昌氏
	48	参加の街づくりからコミュニティ主体のまちづくりへ	計画技術研究所 林泰義氏
	49	鉄道施設改良工事の計画から完成まで	東武鉄道 瓜生竹男氏
	50	簡単な換地の定め方～換地計画と事業計画は一体である～	昭和 清水浩氏
	51	歴史的都市のまちづくり～保存と開発の調和をめざして～	日本開発構想研究所 新谷洋二氏
	52	消防の話題と課題あれこれ	日本消防設備安全センター 大熊順三氏
	53	米国における中心市街地活性化事例調査について	市浦都市開発 佐藤健正氏
H13	54	大都市圏のリノベーションプログラムの概要	アルテップ 荒川俊介氏
	55	大深度地下利用の展望	国交省都市・地域整備局 坂巻健太氏
	56	SOHO支援を核としたまちづくり	まちづくり三鷹 宇山正幸氏
	57	交通バリアフリーについて	国交省総合政策局 金指和彦氏
	58	公有地における定期借地権の活用状況	計画技術研究所 須永和久氏
	59	都市居住についての住民意識と生活中心の街づくり	リビングデザインセンター 浅倉与志雄氏
	60	東京都市圏の交通の動向と総合交通体系の方向	I B S 鈴木奏到氏
	61	G I Sをベースにした交通シミュレーション	埼玉大学助教授 久保田尚氏
H14	62	都市再生に力を入れる英・仏の現況(視察報告)	R I A 近藤正一氏
	63	都市のユニバーサルデザイン	国際開発コンサルタンツ 松原悟朗氏



年度	回数	テーマ	講師
H14	64	都市計画等における合意形成を支援するためのソフトウェアの活用と今後の可能性	フォーラムエイト 和田忠治氏
	65	都市再生の動向	国交省都市・地域整備局 清水喜代志氏
	67	街づくりの合意形成と意思決定	IBS 大熊久雄氏
	68	IT革命と地方再生	地域振興整備公団 小林一氏
	69	まちづくりとファイナンスの仕組み	日本インテリジェントトラスト開発研究所 野口秀行氏
	70	近未来のまちづくり	エコプラン 三船康道氏
H15	71	地方都市における中心市街地活性化	RIA 村田秀彦氏
	72	EU及び傘下主要国のサステイナブルな都市再生政策の動向	アルテップ 荒川俊介氏
	73	まちづくりとファイナンスの仕組みパート2	日本インテリジェントトラスト開発研究所 野口秀行氏
	74	H15都市地域整備局事業概要について	国交省都市・地域整備局 清水喜代志氏
	75	まちづくりとファイナンスの仕組みパート3	日本インテリジェントトラスト開発研究所 野口秀行氏
	76	密集市街地整備のセオリーと可能性	地域計画連合 江田隆三氏
	77	東京60年の計～長派理論で読み解く2065年の東京の姿～	UFJ総合研究所 丸田一氏
	78	都市はこうなる～30年後の都市環境を観る～	新日本製鉄 川畑一夫氏
	79	人口停滞を経験した成熟江戸期の城下政策に学ぶ	法政大学教授 高橋賢一氏
	80	六本木の再開発と広場の取り方	森ビル 野島紀久氏
	81~82	※資料なし	
H16	83	景観線三法について	国交省都市・地域整備局 清水喜代志氏
	84~86	※資料なし	
	87	持続可能な都市づくりのための社会制度	早稲田大学教育学部教授 工藤裕子氏
	88~90	※資料なし	
	91	クレムリン	RIA 村田秀彦氏
H17	92~96	※資料なし	
	97	団地再生のすすめ	明治大学理工学部教授 澤田誠二氏
	98~100	※資料なし	
H18	101	都市再生と六本木ヒルズ	森ビル 綿引正弘氏
	102~107	※資料なし	
	108	民間都市開発事業における「まち再生出資制度」の活用	民都機構まち再生支援部 矢部元氏
	109	※資料なし	
	110	景観の良し・悪しとはなんだろう	FIT環境デザイン研究所 中井川正道氏
H19	111	※資料なし	
	112	花による美しいまちづくりは可能か	NPOつくばアーバンガーデニング 井口百合香氏
	113~119	※資料なし	
	120	地下空間を活用した都市づくり	鉄建建設 粕谷太郎氏

年度	回数	テーマ	講師
H20	121	都市の記憶を継承する～イタリヤに学ぶ修復型都市再生～	オリエンタルコンサルタンツ 民岡氏
	122	H20年度都市地域整備局関係事業概要について	国交省 渡邊調整官
	123	近年における民間業務代行方式による土地区画整理事業の動向	昭和 奥野氏
	124	新たな都市空間デザイン調整への取り組み	都市総合計画 小市氏
	125	マンション建て替え事業について	シティコンサルタンツ 林氏
	126	中国における住宅都市開発プロジェクトの動向	
	127	かながわエコ・エネルギータウンプロジェクト	計画技術研究所 須永氏
	128	景観まちづくりの今日的実態	都市環境研究所 大野氏
	129	密集市街地における段階的まちづくりの取り組み	日本測地設計 清水氏
	130	東京ミッドタウン開発の経過と成果	三井不動産 山下氏
H21	131	ヒートアイランド対策とその評価について	創建 川合氏
	132	今後の都市政策の課題と都市計画制度の見直し	国交省 渡邊調整官
	133	最近のPRE(公的不動産)開発の動向について	パシフィックコンサルタンツ 阪口氏
	134	えびなの森創造事業にみる協働のまちづくり	千代田コンサルタント 宮崎氏
	135	グローバルな視点から見た地球環境への関心の寄せ方	計画工房 神谷氏
	136	郊外再編の方向/失いし価値資源の再生	法政大学教授 高橋氏
	137	戦略的環境影響評価について	東武計画 小澤氏
	138	高齢者住宅と(株)メッセージの戦略	メッセージ 奥村氏
	139	中野区野方地区のまちづくり	当協会まちづくり技術交流会 時任氏
H22	140	都市の抱える今日的課題	まちづくり区画整理協会 時任氏
	141	ターミナル駅周辺の再開発に係る課題と展望	東急設計コンサルタント 大場氏
	142	H22都市地域整備関係事業概要について	国交省 神田室長
	143	これからの都市整備と観光事業の役割	原重一観光研究所 原重一氏
	144	総合都市交通体系調査の今日的課題	IBS 秋元氏
	145	フランス庭園の面白さ(ル・ノートルの世界)	ブレイク研究所 杉尾氏
	146	都市交通と低炭素まちづくり	日本工営 望月氏
	147	アニメによる驚宮のまちおこし	驚宮商会 松本氏
	148	農業自然歴史など地域資源を生かしたまちづくり	オリエンタルコンサルタント 山川氏
	149	住宅地のエリアマネジメント	ブレイスメイキング研究所 温井氏
150	防災まちづくりの動向について	エイト日本技術開発 田辺氏	



年度	回数	テーマ	講師	年度	回数	テーマ	講師
H23	152	H23都市地域整備関係施策の概要	国交省 英室長	H26	180	平成26年度都市局関係施策の概要について	国土交通省 都市局 まちづくり推進課官民連携推進室長 中村純氏
	153	都市構造の可視化について	セントラルコンサルタント 小坂氏		181	わが国初のライジングボラードの社会実験について	国際交通安全学会 松原悟朗氏
	154	東日本大震災から国際協力を展望する	ジェネスプランニング 三船氏		182	これからの「健康・医療・福祉のまちづくり」について	国土交通省都市局街路交通施設課 東智徳氏
	155	環境への取り組みと企業活動のあり方について	URリンクージ 谷口氏		183	復興まちづくりとCMのあり方	オオバ震災復興事業本部 赤川俊哉氏
	156	住民の温暖化とまちづくり	国交省総合政策局 秋村参事官		184	震災復興・地方都市のみらいを共に創る	大和リース東京本店震災事業推進室 立花弘治氏
	157	無電中化のまちづくり	国際開発コンサルタント 高瀬氏		185	都市構造の評価に関するハンドブックについて	国土交通省都市局都市計画課 筒井祐治氏
	158	「公共政策としてのアーバンデザイン」のその後	慶応大学専任講師 中島氏		186	東日本大震災の復興から考えるこれからの街づくり	TOKEN 平井一男氏、地域計画連合 菅原康晃氏、アルテップ 柳瀬有志氏
	159	地方都市の公共交通とまちづくりへの取り組み	サンワコン 林氏		187	都市の公共オープンスペースのリノベーション	芝浦工業大学教授 中野恒明氏
	160	住民主体のまちづくり～コンサルの役割を考える～	まちづくり工房 大橋氏		188	都市の彩りとは何か	地域計画研究所 坂井信行氏
H24	161	開発コンサルタントと国際開発	日本工営 森尾康治氏	189	国土のグランドデザイン2050	国土交通省国土政策局総合計画課	
	162	H24年度都市整備関係施策の概要	国交省 佐藤室長	H27	190	東日本大震災復興まちづくりのあり方に関する調査研究	日本測地設計 鳥飼修氏 市浦H&P 西郷裕之氏
	163	これからのまちづくりと環境対策	帝人エコサイエンス		191	平成27年度都市局関係施策の概要について	国土交通省 都市局 まちづくり推進課官民連携推進室長 中村健一氏
	164	特定保留地区における民間開発誘導と企業立地への取り組み	URリンクージ 森下氏		192	新たなステージに対応した防災・減災のあり方	国土交通省水管理・国土保全局防災課大規模地震対策室長 藤兼雅和氏
	165	復興まちづくり創意形成ガイドラインについて	ケー・シーエス 牧野氏		193	トヨタ財団の助成事例に見る地方創生のヒント	トヨタ財団 喜田亮子氏
	166	大和リースのPF1/PPP事業の事例紹介	大和リース 反町氏		194	まちづくりと連携した地下鉄整備の展開について	東京地下鉄 望月明彦氏
	167	商店街を地域の拠点に～感動をデザインするまちづくりとは～	まちとひと感動のデザイン研究所 藤田氏		195	中国諸都市のまちづくり最新事情	都市地下空間活用研究会 粕谷太郎氏
	168	まちづくりは100年の時間づくり～万福寺区画整理事業民によるまちづくり～	ニューコムジャパン 佐々木氏		196	市民参加型防災まちづくりの合意形成	都市交流プランニング 鶴見英次氏 ISS創研 林将廣氏、IDEC 松下佳広氏
	169	平成25年度都市整備施策の概要	国交省 菊池調整官		197	地域包括ケアと柏市のまちづくり	柏市都市部都市計画課 梅澤貴義氏
H25	170	商店街巻き込み型のまちづくりの実践	中野区社会福祉活動計画策定委員 山本氏		198	鉄道沿線のまちづくり	国土交通省都市局街路交通施設課 酒井了氏
	171	地域活性化に向けて～都市の再構築戦略～	国交省 佐藤室長	199	住まい・暮らし発～市民社会の担い手育ち～コレクティブハウスの15年～	コレクティブハウジング社 狩野三枝氏	
	172	漁村と都市計画の関係について	水産庁防災計画官 若山氏	H28	200	平成28年度都市局関係施策の概要について	国土交通省 都市局 まちづくり推進課官民連携推進室長 中村健一氏
	173	官民連携による都市輸出	UR 長野啓氏		201	住民参画によるまちづくりの実践～つくばにおけるまち育てモデル事業～	都市交通センター 伊藤節治氏
	174	葛城地区のまちづくり～市民協働まちづくりへの挑戦～	つくば都市交通センター 伊藤節治氏		202	立体換地制度の新たな展開について	国交省都市局市街地整備課 筒井祐治氏
	175	低炭素まちづくりに向けて～コンサルタントの役どころを考える～	サンワコン環境共生部 桶谷氏				
	176	地下街の防災対策	都市地下空間活用研究会 粕谷太郎氏				
	177	密集市街地の再整備 住民と行政のパートナーシップのまちづくり	日本測地設計 岩城淳一氏				
	178	西富久地区の再開発事業～まち守る願い、住み続けられる“まちづくり”をめざして～	まちづくり研究所 増田由子氏				
179	東京都における密集市街地整備の取組み	東京都防災都市づくり課 松本祐一氏					



<編集部補足②>

第200回都市懇サロン 報告

平成28年4月19日火曜日18時より、協会会議室にて、19名の参加のもと、第200回の都市懇サロンが開催されました。

当日は、国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室長の中村健一様を講師にお招きし、平成28年度都市局関係施策の概要についての説明と意見交換が行われました。



協会レビュー 2016年第1号 (平成28年6月発行)

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目一番一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久